

将来都市構造

◆基本的な考え方

様々な社会潮流の変化の中、誰もが安心して健康で快適な生活を送れる環境を持続すべく、大磯町の地形的にコンパクトな市街地特性を生かした将来都市構造を構築します。

コンパクトな地域特性を生かし、自然資源や田園環境を踏まえた「ゾーニング」を行い、また、都市間連携と円滑な都市活動、歴史的な背景による「都市軸や環境軸」を位置づけながら、都市間、地域間のネットワークや防災力を強化していきます。そして、大磯、国府のそれぞれの中心となる「まちの拠点」、住民活動や商業活動の充実を図る「歴史・文化交流拠点」、「みなと交流拠点」及び「みどりの拠点」を配置し、既存資源を生かした都市機能の強化を図ります。

ゾーン・軸・拠点が連携・連動して、街中に新たな都市機能の新陳代謝を促す将来都市構造を構築し、持続可能なまちづくりをめざします。

① 大磯らしさをかたちづくるゾーニング（基本ゾーニング）

居住ゾーン	○自然環境との調和や地域独自の景観に配慮した良好な居住環境の形成を図ります。
商業・業務ゾーン	○大磯・国府地域それぞれの特性を生かした商業機能と公共・公益サービスの向上を図る業務機能の集積強化を図ります。
工業・物流ゾーン	○既存の「工業及び物流ゾーン」の産業機能の維持を図りながら、住民活動の場としても有効活用を図ります。
農業里山ゾーン	○農地と集落による里山環境の維持をするとともに、多面的な活用を図りながら、農地及び田園風景の保全を図ります。
自然環境保全ゾーン	○丘陵地、海浜地、大規模な公園等を「自然環境保全ゾーン」に位置付け、自然環境の保全及び再生を図ります。
歴史・文化交流ゾーン	○自然と歴史・文化資源を生かした都市機能の強化を図り、レクリエーション機能の創出を図ります。

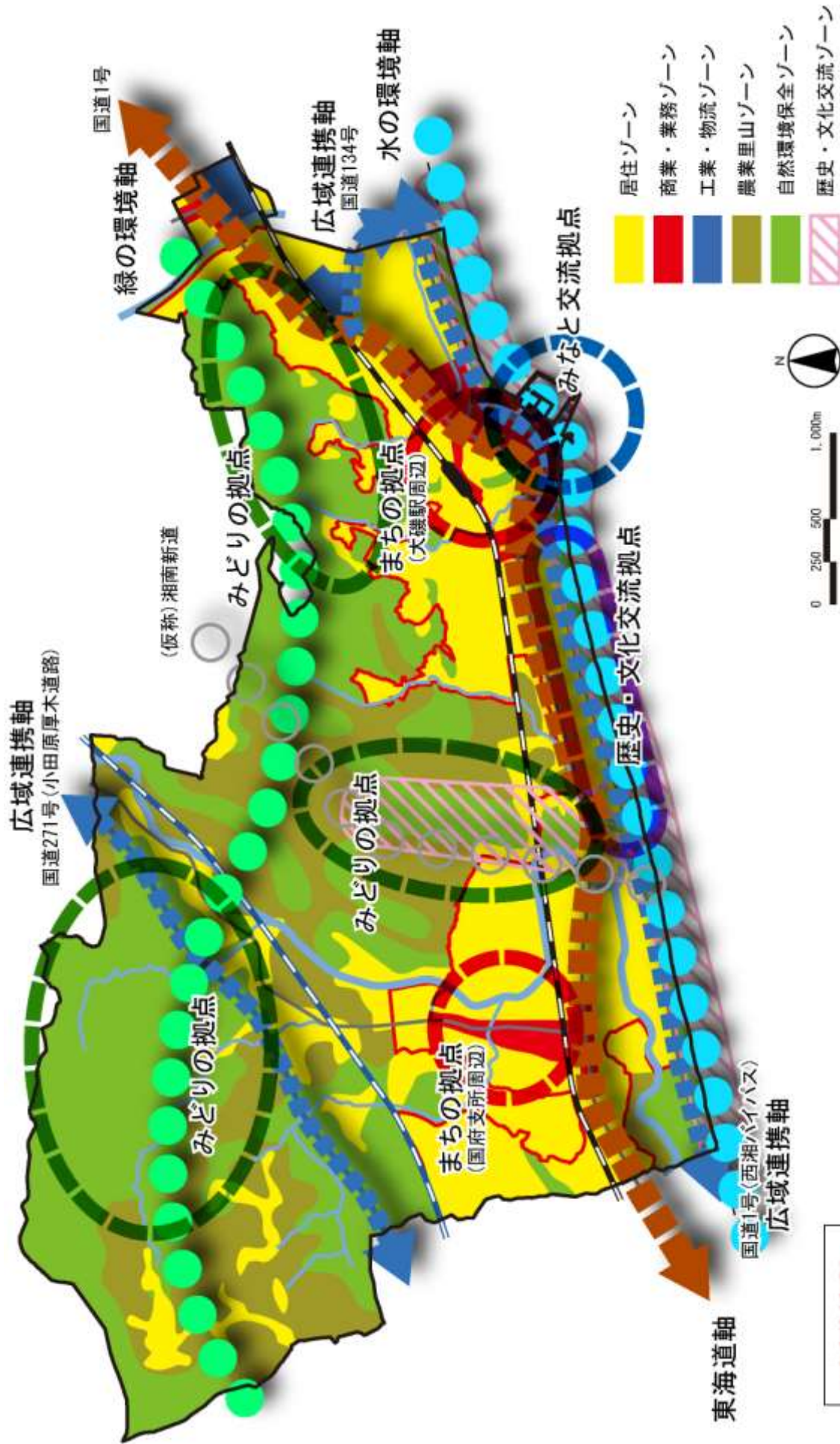
② 大磯の活力とネットワークを確保する都市軸（都市軸形成）

東海道軸	○歴史や景観を生かした魅力ある街道空間の軸として国道1号を「東海道軸」に位置づけます。
広域幹線軸	○広域的なネットワークとのアクセス向上に向けて、広域及び周辺都市との連絡に資する「広域幹線軸」として国道1号（西湘バイパス）、国道271号（小田原厚木道路）、国道134号を位置づけます。
緑の環境軸	○鷹取山から高麗山につながる連続した丘陵地と里山を「緑の環境軸」として位置づけ、みどりの保全とネットワークづくりを推進します。
水の環境軸	○相模湾を望む海岸沿いを「水の環境軸」に位置づけ、海岸保全とともに、自然散策等のレクリエーション機能を強化します。

③ 大磯の魅力が溢れる都市機能を強化する拠点（拠点形成）

まちの拠点	○大磯駅周辺及び国府支所周辺を「まちの拠点」に位置づけ、地域の顔・中心として拠点形成を図ります。
みなと交流拠点	○JR大磯駅から大磯港までのみなと下町エリア等を含む「みなとオアシスエリア」を「みなと交流拠点」に位置づけ、交流促進や観光振興の活性化をめざします。
歴史・文化交流拠点	○旧吉田茂邸や明治記念大磯邸園周辺を「歴史・文化交流拠点」に位置づけ、観光振興を通じた活性化をめざします。
みどりの拠点	○鷹取山周辺、万台こゆるぎの森周辺や高麗山を「みどりの拠点」に位置づけ、保全と利活用を進め、身近な自然環境空間の創出を図ります。

◆ 将来都市構造図



※未定稿(素案)